

その時もなかなか出てこなかった牛だった。その時は後に回って追い出すようにしてしたが、後ずさりしてきた、とにかく人見知りする牛だった。臆病な牛で、セリの前に固定し繋ぎをしていたが、少し嫌がっていた。

臆病な牛、嫌がる牛をいかになだめすかすか、人間と牛との関係の最も困難な課題。それぞれが色々と工夫をしているだろうが、それぞれの知恵を聞き伝えのみではなく、みんなで出し合って、ディスカッションし、それぞれ実践して、その結果をまた持ち寄って経験を一つの法則にしていくしかけも必要ではなからうか。



牛舎から引っ張ってきた牛が、5mほど出たところで、突然Uターンし、ご主人を後から、突き倒した。

(2) 牛がぶつかって来た

⑥牛舎で作業中、背後の牛がぶつかり、持っていたフォークで足を刺した

(平成21年 8月 午後7時頃、繋ぎ飼い牛舎、男性・36歳)

繋ぎ飼い牛舎（対尻式）内で、牛と牛の間に入って牛床の敷きわらを直す作業をしているときに、背後にいた牛がぶつかってきたために前よろけた。その拍子に手に持っていたフォークで右足の甲を刺してしまった。3年くらい前にフォークで足を刺し通した人がいたことが頭をよぎり、すぐにフォークを引いたため、深い傷にならずに済んだ。



作業をやり終えた後、患部から血を出して、洗った。夜遅くなったので翌日病院に行った。

* 事故原因

被害者は、「牛とのスキンシップは大事だが、自分が主であることを覚えさせるときは厳しく接しする必要がある」と考えている。叱られた牛はしばらく人影におびえる程であ

るという。当牧場の牛はリラックスしており、概して穏やかだが、経営者の心理状態には敏感になっているように見受けられる。

牛は人に対しておびえた状態になると、人を遠ざけようとして身体を寄せることがあるとのこと。被害者は、手早く仕事を終えたい性格なので、どうしても気ぜわしい気分になる傾向があり、その心理状態が牛に伝わり、ナーバスにさせた可能性が考えられる。



安全靴は馴れないので履かない（現在市販の軽量な安全靴を見たことがないため。検討するようお勧めした）。

⑦牛舎で給餌作業中、牛が頭突きしてきて、左胸を強打した

（平成24年 5月 午後6時頃、繋ぎ飼い・対頭式、女性・45歳）

牛舎内の中央通路で、乾草をフォークで飼槽に配っていた作業中に、牛に近づいたときに、経産牛が被害者の左脇を頭突きした。しばらく立てないほど痛みが酷いので夫の車で病院へ向かった。左肋骨のヒビ、通院数回、全治1カ月。



* 事故原因

牛は群れの中での序列をつける習性があり、相手が人間であっても群れの一員と見なすことがある。牛は人間を正確に見分けることができるため、相手によっては序列を決定するために挑戦してくる場合があり、今回のケースはそれに該当するものと考えられる。

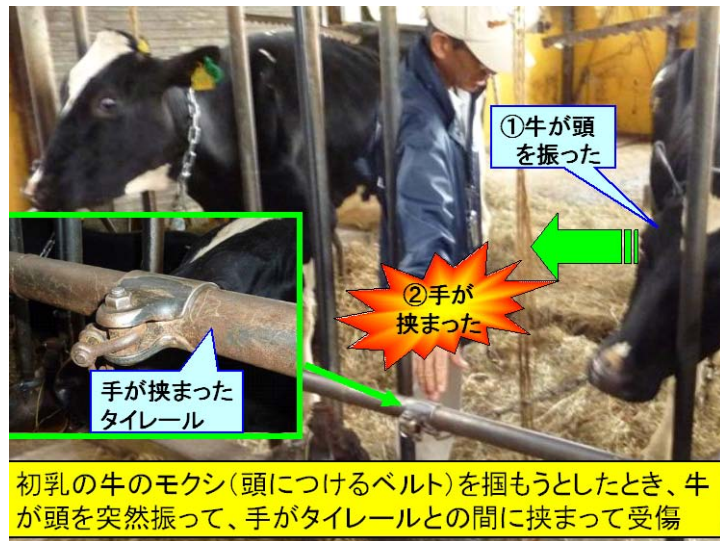
本人は、普段から牛とのスキンシップを図ろうとしているが、牛が甘えてくるとかえって危険なため、できるだけ抑えるようにしている。本当は撫で回してかわいがってやりたいと思っているとのこと。頭突きした牛は、仔牛の頃から足が悪かったため、よく声をかけてやっていた。かわいがってやっているつもりだったが、それなのに最近、挑戦的な態度を取るようになったので非常に心外であるという。

この牛は足が悪く、放牧できないため、群から放され牛舎内に取り残されることがストレスとなっていたことが推測された。

なるべくこの牛には近づかないようにし、近づかなければならないときは、絶えず目を離さないように気をつけて作業をしている。

⑧初産牛の搾乳準備作業中、牛が頭を振ったためタイレールとの間に手を挟んだ
(平成24年 5月 午前9時頃、繋ぎ飼い牛舎・対尻式、男性・42歳)

牛舎内で、初産の臆病な牛の最初の搾乳作業を行うとき、暴れさせないように頭にモクシをかけ、鼻先を引っ張り上げるとともに、キックノン（牛が蹴るのを防ぐために胴体を締め付ける道具）を付ける作業を行っていた。モクシ（牛をロープで繋ぐために頭にかけるベルト）を掴もうとしたときに、急に牛が頭を振り上げたため、手がタイレール（牛を繋いでいる紐を繋ぐレール）との間に挟まれた。



消毒し、絆創膏を貼って応急処置を施し、作業を終わらせた後、病院へ向かった（ケガを負ってから約1時間後）。右手第4指裂傷（数針縫合）、通院数回通院は1～2回。初日は痛くて眠れなかった。

*** 事故原因**

初産でもあり、ナーバスで突発的な動作を行う可能性の高い牛を扱う作業であったが、意識せずに牛の頭とタイレールの間に手を入れてしまった。

なお、その牛は現在は搾乳にも馴れ、おとなしくなった。

⑨放牧地に乳牛を出す作業中、牛が頭を振り上げ作業者の左胸にぶつかった
(平成24年 5月 午後2時頃・金曜日、繋ぎ飼い・対頭式、男性・42歳)

対頭式繋ぎ飼い牛舎内で放牧地に乳牛を放すため、スタンションを外そうとしたがロープが絡まってロックがなかなか外れなかった。そのとき、牛が頭を振り上げて被害者の左胸に当たった。

事故当時は金曜日であり、作業が終わった時点では遅かったため、土日明けの月曜日に病院へ行った。左肋骨2本骨折、通院3回。

* 事故原因

放牧を開始した時期であり、牛が喜んで興奮していた。草のにおいや人の動きで、牛は放牧期が近づいていることを察知し、ざわつき始めるため、この時期は特に牛の扱いに注意が必要である。

牛が興奮しているような場合は、落ち着くのを待ってから作業するようにした。

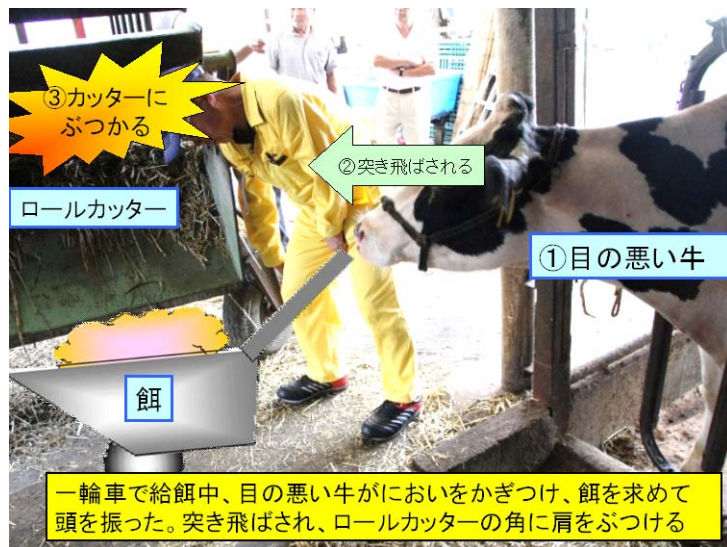


⑩目の不自由な牛の給餌をしようとして、頭を振られ突き飛ばされ、そばにあったロールカッターに右肩をぶつけ、打撲。

(平成24年 4月・土曜日 夕方、牛舎、男性・73歳)

ビートを一輪車で運んできて、横から目の悪い牛（右目はほとんど見えない、左はうっすらと見えるだけ）に給餌をしようとしたら、その牛が頭を振ったために体のはじきとばされ、近くに置いてあったロールカッターのエサの出口角（金属部分）に右肩が当たった。

目の見えない牛は、においには敏感で、給餌の一輪車が近づいてにおいがしたので餌がもらえると思って、頭を振ったらしい。



土日は病院が休みなので、冷やして我慢した。月曜日になって、自分で車を運転して病院へ行った。方向指示器が出せないほど右肩が痛かった。労災だからと言われ、鎮痛剤はもらえなかった。（査定され削られたか？）医者には、「こんな時は冷やしてはダメだ」とも言われた。右肩打撲、通院のみ。

今も手が十分に上がらない。上げる時は、何回か上げ下げしてようやく上がる。手術をすれば治ると言われたが、「治るのには1年はかかる」といわれ、牛飼いをしている限り